

開会挨拶

就職問題委員会委員長 中 明 夫 氏
(大阪成蹊短期大学理事長)

今年の研修会には、全国から158短期大学・190名の皆様にお集まりいただきました。多数お集まりいただき、有難うございます。今日から3日間、本年度の研修プログラムを開始いたしますが、開会に先立ちまして、若干、私からお願いを兼ねたご挨拶をさせていただきますと思います。

申し上げるまでもございませんが、インターネットがこの10年ぐらいの間に想像を上回るスピードで進行してまいりました。先日、アメリカのジャーナリストで、トーマス・フリードマンという人が書きました“**The World is Flat**”，「フラット化する世界」という題名の本が、書店でかなりたくさんの方に買われて、読まれているということを知りました。私もその本に目を通しました。その中で、アメリカのある航空会社の予約受けの仕事が、インドのある街のオフィスでなされている。それぐらい世界の労働の現状が、20年前には考えられなかったような状況で、非常に複雑な労働マーケットにどんどん変わっていつている。当然、その状況というのは、日本の国内においても、同じように進行しているのだろうと思います。よくアウトソーシングということばを聞きますが、今やアウトソーシングというのは、部分的に同じ国の中で仕事を頼むというレベルではなくて、国境を越えて、労働市場が互いに密接に係わりを持つという状況になっている。このような状況の時代に短期大学に入学し、卒業する学生諸君が、これからどのような能力、知識を身につけて社会に出て行ったらよいのか、本当に新しいチャレンジの時代に入っているのだと思います。

このような時代に、皆さんは学生諸君を社会に送り出す最後の担当責任者として、就職の仕事をされています。そこでまず、普段から色々なことを見聞きする中で、社会の流れや変化を正確に理解する力、大局的に世の中の動きを見る心構えなどについて意識を持っていたくことが大事なことだと思います。

今回の研修会を実施するにあたり、私どもの狙いがいくつかございます。それらを整理いたしまして、私から皆様方に有意義なる研修会だったなと感じて帰っていただくためのポイントを三つ、申し上げたいと思います。第一点は、是非、この研修プログラムに受身ではなく、積極的に係わるという意識を持って参加していただきたい。それが結果的に、何らかの形で必ず皆様方の能力アップにつながるようになるだろうと思っております。

第二点は、先ほど申し上げましたように、世の中が信じられないほどのスピードで大きく変わっております。そのような世の中に学生諸君を送り込む仕事というのは、やはり、キャリア教育をどのように学生諸君に対して行ったらよいのかということだと思います。就職担当の仕事というのは、求人紹介が仕事ではないということは、あらためて私が申し上げるまでもないことです。就職担当の仕事をしておられる皆様方が、教員と一緒にキャリア教育の一翼を担っていただく。そのためにも、この研修会を通じて、それぞれの短期大学において、キャリア教育にどのように取り組んだらよいのかということを考える参考を、是非会得してお帰りいただきたいと思っております。

三つ目のポイント、それは日本の色々なところで、短期大学教育に携わっている皆様方が、このように一堂に会して研修を受ける。それぞれの短期大学で同じ就職を担当している方が集まるという機会は滅多にありません。そこで、是非、今日、この研修会にお集まりいただいた方が、できるだけたくさんの方と情報交換のパイプをつなぎ、ネットワークを作ることによって努力をしていただきたい。その横のつながり、結束力が短期大学全体として、学生が社会にでる力や能力をアップさせるための共同作業として成果をあげていくことになるのではないかと思います。

この3つの視点を頭の隅に置いていただき、3日間の研修会が本当に為になった、意義があったなというように感じてお帰りになられますようお願いいたします。

最後になりましたが、この資料集の巻末に書いてありますとおり、この研修会は財団法人私学研修福祉会の主催で、運営に関しましては、日本私立短期大学協会の就職問題委員会の委員がプログラムの計画、策定、進行、グループ討議の運営等を行っております。是非、グループ討議などで活発な討議を展開していただきますことをお願いいたしまして、開会にあたっての挨拶とさせていただきます。